

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 浜松デザインカレッジ	設置認可年月日 平成20年3月21日	校長名 松本 文晴	所在地 〒430-0929 静岡県浜松市中区中央3丁目10-31 (電話) 053-450-6555												
設置者名 学校法人 静岡理科大学	設立認可年月日 昭和27年3月31日	代表者名 橋本 新平	所在地 〒420-8538 静岡県静岡市葵区相生町12番18号 (電話) 054-200-3333												
分野 文化・教養	認定課程名 文化・教養専門課程	認定学科名 グラフィックデザイン科	専門士 平成23年文部科学省告示第167号												
高度専門士	-														
学科の目的	本学科は、広告・デザイン業界における総合的な学習を行い、実務能力と技術、デザイン力を兼ね備えた、人材の育成を目的とする。また時代に即応したビジネスセンスも学び、業界のスペシャリストとして幅広く活躍できる適応能力も身につける。														
認定年月日	平成29年2月28日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義												
3年	昼間	3060時間	150時間												
	夜間														
			演習												
			2910時間												
			実習												
			0時間												
			実験												
			0時間												
			実技												
			0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実)	専任教員数												
90人	97人	0人	3人												
			兼任教員数												
			20人												
			総教員数												
			23人												
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価												
			■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学年末までに課題提出または試験を実施、平素の取り組み状況を加味し60点以上を合格とする。												
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏季:8月1日～8月23日 ■冬季:12月14日～1月6日 ■学年末:3月5日～3月31日		卒業・進級条件												
			■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ■査定日現在で学納金に未納がないこと												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に担当教員・教務課長が各種手段で連絡し、保護者と相談しながら改善策を検討する。	課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 インターンシップ 企業コラボレーション企画 ■サークル活動: 有												
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) (株)アドワイル(南)オフィス(南)キヨシ看板店 ヴィデザインオフィス (株)WETCH(株)エイチーム 中部印刷(株) 東海電子印刷(株) 等 ■就職指導内容 就職担当と各学科担当が綿密に連携をとり、求人開拓、情報収集、学生指導等を行っている。 ■卒業者数 : 25人 ■就職希望者数 : 21人 ■就職者数 : 21人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 84% ■その他 (令和元年度卒業生に関する 令和2年5月2日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A・F・T色彩検定</td> <td>③</td> <td>27</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>クリエイター能力検定</td> <td>③</td> <td>26</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・マルチメディア検定文部科学大臣賞受賞 ・色彩検定協会奨励賞 ・JAGDA国際学生ポスターアワード2019 入選 ・第13回メディアユニバーサルデザインコンテスト最優秀賞	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	A・F・T色彩検定	③	27	22	クリエイター能力検定	③	26	22
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
A・F・T色彩検定	③	27	22												
クリエイター能力検定	③	26	22												
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 5.8% 平成31年4月1日時点において、在学者85名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者80名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、精神的健康事由 ■中退防止・中退者支援のための取組 日々のHRでの状況確認、個人的な細やかなケアを行う。														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度有 特待生:授業料全額免除 準特待生A:授業料の50%免除 準特待生B:授業料の25%免除 準特待生C:授業料より10万円免除 ■高等教育の修学支援制度 対象機関 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載														

第三者による学校 評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)
当該学科のホーム ページURL	https://www.design-hamamatsu.jp
(留意事項) 1. 公表年月日(※1) 最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください	
2. 就職等の状況(※2) 「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。 (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。 ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。 ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。 ※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。 (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。 ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。 (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。	
3. 主な学修成果(※3) 認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
広告デザイン業界に必要とされる知識、技術、感覚を向上させるためのプログラムを教育課程に取り入れ、即戦力として活躍できる人材を育成するために、教育課程編成委員会を開催し、関連業界や関係者の意見を踏まえ、授業科目及び授業時間の見直しを検討する。また、教育内容を業界のニーズに合うように見直し、教育課程及びシラバスの内容を改善する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
企業等のニーズを教育に反映させるため、学校組織内における教育課程編成委員会の位置づけを「専門学校 浜松デザインカレッジ教育課程編成委員会の位置づけにかかわる規則」として、またその運営も「専門学校 浜松デザインカレッジ教育課程編成委員会の規則」として制定する。委員会での審議内容は職員会議で報告され、教務課にて各学科での話し合いで教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿
令和2年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 規仁	静岡県広告業協会 西部委員長	令和2年2月1日～令和3年1月30日	①
内田 雅之	株式会社グランロード 代表取締役社長	令和2年2月1日～令和3年1月30日	③
松本 文晴	専門学校浜松デザインカレッジ 校長	令和2年2月1日～令和3年1月30日	
中島 康弘	専門学校浜松デザインカレッジ 校長代理・教務課長	令和2年2月1日～令和3年1月30日	
滝口 小百合	専門学校浜松デザインカレッジ グラフィックデザイン科教諭	令和2年2月1日～令和3年1月30日	
加藤 優作	専門学校浜松デザインカレッジ グラフィックデザイン科教諭	令和2年2月1日～令和3年1月30日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年8月22日 14:00～16:00

第2回 令和2年2月21日 10:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
学生を学校活動に対していかにモチベートさせるかについての意見交換
「マインド」や「概念」や「企画」と言った部分をどのように教えるかを体系立てて教えることが理想的
新卒学生に求めるのは、「取組み姿勢・やる気」が最も重要。学生の成長をきちんと「評価」することを、仕組みとして整えたい。
使用ソフトウェアなど制作のプロセスは5～10年を見据えると、大きく変化していくことが想像できる。正しく見極めて柔軟に対応していかないといけない。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

広告デザイン業界に就職する学生に対し、関連する業界内での仕事への取り組み方(基本行動)や発想力を演習・実習を通して経験し体得することができ、運営に協力的な企業を選定している。
同時に業界で活動している方を講師に招き、現場の声を学校教育の場に注ぎ込むことにより、教育内容と指導体制を改善させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

グラフィックデザイン科が目指す進路である広告、デザイン業界での重要な科目について、業界の経験豊富な講師の評価を受ける。実施にあたり事前に打ち合わせを行い、全時間終了後の到達目標の設定、講義と演習の割り振り、成績評価方法を決定し、これに則って授業をする。
また、本校教員が各回の企業講師の指導内容を学生に定着させ、課題の補足指導行う連携をする。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。				
科目名	科目概要	連携企業等		
ブランディングデザイン I	市内の老舗製菓店の販売促進キャンペーンの打ち出し、課題の抽出から、方向性の提案、ポスターやチラシにてイベントの実施までに対して提案を行った。	株式会社ブルックスタジオ		
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係				
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針				
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「専門学校 浜松デザインカレッジ 職員研修規程」を定め、教員の資質、人間性、専門分野における知識、技術の向上を図るため「職員研修」を、企業等及び研修機関と連携して、育成対象の教員に対し組織的及び計画的に実施している。				
(2)研修等の実績				
①専攻分野における実務に関する研修等				
研修名「MarketingInnovationDAY～インサイトを捉え、次なるフィールドを開拓していくマーケターたち～」(連携企業等:株式会社 宣伝会議)				
期間:令和元年11月 対象:グラフィックデザイン科教員1名				
内容:新時代を見据えたマーケティング発想法/行動データ×意識データによる分析/超スマート社会におけるマーケターの在り方				
②指導力の修得・向上のための研修等				
研修名「講師力UPのための講師の心構え・クラス運用について」(連携企業等:一般社団法人キャリアデザインアプローチ)				
期間:令和元年8月28日(対象:専任教員18名)				
内容:①必要な要件、②自分のプロデュース 3クラス運営のコツ④集団への対応について				
(3)研修等の計画				
①専攻分野における実務に関する研修等				
②指導力の修得・向上のための研修等				

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目標
(2)学校運営	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(3)教育活動	基準2 教育活動
(4)学修成果	基準3 教育成果
(5)学生支援	基準4 学生支援
(6)教育環境	基準5 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準6 学生の募集と受入
(8)財務	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(9)法令等の遵守	基準7 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準8 社会貢献・地域貢献、国際交流
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

R元年度の取り組みとして、大同窓会の企画、参加の案内を実施する中で、卒業生の動向の調査を行った。コロナウイルス拡大の影響を受け、実施は延期となったが、同窓生同士、学校、在校生相互の利益につながる取り組みができた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
町田 慶児郎	専門学校 浜松デザインカレッジ 後援会 会	令和2年5月20日～令和3年3月31日	保護者
竹山 華奈	専門学校 浜松デザインカレッジ 同窓会 会	令和2年5月20日～令和3年3月31日	卒業生
鈴木 規仁	株式会社旭ビジョン 専務取締役	令和2年5月20日～令和3年3月31日	企業
松尾 耕作	遠州織物工業協同組合 事務局長	令和2年5月20日～令和3年3月31日	企業
山下 元秀	株式会社ルナ・ソール 代表取締役	令和2年5月20日～令和3年3月31日	企業
山崎 文彦	松江町自治会	令和2年5月20日～令和3年3月31日	地域住民
松本 文晴	専門学校 浜松デザインカレッジ 校長	令和2年5月20日～令和3年3月31日	事務局
中島 康弘	専門学校 浜松デザインカレッジ 校長代理	令和2年5月20日～令和3年3月31日	事務局
鈴木 邦治	専門学校 浜松デザインカレッジ 総務課長	令和2年5月20日～令和3年3月31日	事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.design-hamamatsu.jp>

令和2年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育活動及び学校運営について理解を求めするため、詳細について「学校評価報告書」と「学校情報」をホームページ上で公開している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校情報 1. 学校概要、教育理念、教育目標
(2)各学科等の教育	学校情報 2. 各学科の教育
(3)教職員	学校情報 3. 教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学校情報 4. キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学校情報 5. 教育施設・設備、学校行事、さまざまな教育活動
(6)学生の生活支援	学校情報 6. 学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学校情報 7. 学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校情報 8. 学校の財務
(9)学校評価	学校情報 9. 学校評価
(10)国際連携の状況	学校情報 10. 国際連携の状況
(11)その他	学校情報 11. その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.design-hamamatsu.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程グラフィックデザイン科)令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーション活動 I	学校行事・オリエンテーション・レクリエーションを実施し、クラス内や学科内の交流をはかる。	1	60	2	○			○	△	○		
○			パソコン基礎 I	日本情報処理検定協会主催の資格試験合格を目指す。前期では「日本語ワープロ検定試験」、後期では「情報処理技能検定試験」を受験。それぞれのレベルに合った級を学習・受験する。	1	60	2	○			○			○	
○			ビジネスマナー	ビジネス実務の遂行について理解を持ち、一般的な業務を行うのに必要な知識・技能を持つことを目標とする。	1	30	1	○			○			○	
○			デッサン	自己表現の為のデッサンではなく、他者に伝える為・見せる為のデッサンの技術や知識の習得。デッサンの技法を理論的に学ぶ事で短期間での描画力向上をねらう。	1	60	2	○			○			○	
○			レイアウト基礎 I	①DTP において必要なレイアウトの基礎 ②サイズや媒体の違い③制作の進め方、入稿の仕方へのイメージ ①～③を理解し、様々な媒体や素材に合わせたレイアウトのルールを学びながら制作可能な力を身につける。	1	60	2	○			○			○	
○			デザイン概論	デザインを通して、社会とつながり関わっていくことを理解できる。出題に対して、自らの生活や経験と照らし合わせて考察し、まとめ、発表することができる。デザイン史やデザイナー研究にも触れ、職業としての理解と興味をもつ。	1	30	1	○			○			○	
○			ベーシックデザイン	基本的な画材に接しその画材の特性、表現方法を知りながら様々なドローイングを試す。又、イラストを描くだけでなく情報を伝えるためのイラストの描き方を学ぶ。	1	30	1	○			○			○	
○			色彩概論	色彩検定で取得した知識をベースに、実際の商品デザインやカラーコーディネートに落とし込み、的確な配色を可能とする力を身につける。	1	30	1	○			○			○	
○			色彩資格	色彩学の基礎を学び、グラフィックデザインの仕事に不可欠な基礎知識を身に付ける。	1	30	1	○			○			○	
○			メディアと知的所有権	ピクトグラムやサイン、フローチャートなど公共性を意識したインフォメーショングラフィックを理解し、実際に作成できるようになる。	1	60	2	○			○			○	
○			イラストレーション I	様々な画材とそれで描かれたイラストレーションを知る。さまざまな表現方法や、商業イラストとして活かすことのできる技術を身につける。	1	90	3	○			○			○	
○			タイポグラフィ	漢字ひらがな、アルファベットの構造を理解し、明朝体及びゴシック体のレタリングができる。さらにオリジナルの文字やタイポグラフィのデザインができる。	1	30	1	○			○			○	
○			印刷概論	印刷に関する技術や知識を実習体験によって身につける。	1	30	1	○			○			○	
○			入稿技術	デザインの仕事では印刷との関わりは必須のため、入稿方法の基本と技術を学ぶ。	1	30	1	○			○			○	

○		DTPAi	Illustratorを習得することで、パソコンによるデザイン制作の基礎を身につけます。図形の作図、紙面レイアウト、印刷データ作成など基本から応用まで、ステップバイステップで複数の技能を学ぶ。	1	60	2		○	○		○	
○		DTP資格 I	クリエイター活用能力認定試験対策。またAdobe illustratorの様々な使用方法を習得・理解することで、作品制作のための技術力をアップさせる。	1	30	1	○		○		○	
○		DTPPs	Photoshopを習得することで、パソコンによるデザイン制作の基礎を身につけます。画像補正、解像度の理解など基本から応用まで、ステップバイステップで複数の技能を学ぶ。	1	60	2		○	○		○	
○		DTP資格 II	クリエイター活用能力認定試験対策。またAdobe Photoshopの様々な使用方法を習得・理解することで、作品制作のための技術力をアップさせる。	1	30	1	○		○		○	
○		WEBレイアウト I	WEBデザインの基本・楽しさを学び、WEBのレイアウト・基礎知識について学ぶ。	1	30	1		○	○		○	
○		WEB資格	前期に行ったレイアウトの基礎を踏まえ、WEBデザイナー検定に向けて基礎的な部分を学ぶ。	1	60	2		○	○		○	
○		広告企画	色彩力や造形力を磨き、情報をターゲットやコンセプトに即したビジュアルで伝える手法を学ぶ。	1	30	1		○	○		○	
○		写真基礎 I	コミュニケーションツールにおける写真の役割を理解する。写真撮影の基礎技術を学び、コマーシャルフォトの基礎撮影を実践する。	1	60	2		○	○		○	
○		企画制作 I	テーマに対しての企画を立て、DTPやレイアウトなど1年時に習得した技能を活かした製作にまとめることができる力を身につける。	1	30	1		○	○		○	
○		コミュニケーション活動 II	学校行事・オリエンテーション・レクリエーションを実施し、クラス内や学科内の交流をはかる。	2	60	2		○	○	△	○	
○		パソコン基礎 II	Microsoft Office Specialist PowerPoint資格試験合格を目指す。試験対策問題を解きながら、実務でも活用できるプレゼンテーションスキルを身につける。	2	30	1		○	○		○	
○		語学基礎	英語で意思疎通が図れるよう会話力を身に付ける。また、想定されるそれぞれの場面においてふさわしい表現力を学ぶ。	2	30	1	○		○		○	
○		キャリアプラン I	就職活動に必要な心構え・自己分析などを行い自分の方向性を定める。	2	60	2		○	○		○	
○		海外研修	異文化における、グラフィックデザインと歴史的な作品、資料を見学する。また、異文化のデザイン環境に身を置くことによって、日頃の学習では得られない知識・経験を体験して学ぶ。	2	30	1		○			○	○
○		プレゼンテーション	企画やデザインを説得力を持って聴衆に提示し、理解を得るよう促す提案力を身につける。提案の順序、ツールを用いたプレゼンテーションの視覚的表現、オーラルコミュニケーションのテクニックを身につける。	2	30	1		○	○		○	
○		レイアウト基礎 II	書籍の装丁を中心に文字やイラスト、写真などのレイアウトを研究、紙素材の選び方で変わるデザインの効果を学ぶ。	2	60	2		○	○		○	
○		色彩実践	イベントやコンペのポスターデザインを通じて、色彩とデザインの深い関係や文字や素材による情報の伝え方を学ぶ。また、効果的なプレゼンテーションを実践形式でチャレンジし身につける。	2	30	1		○	○		○	

○		イラストレーションⅡ	Illustratorを使った商業イラストレーション／Illustratorのより多くの機能を知り、楽しみながら制作する。ターゲットを意識し、かつ美しいベクターデータを目指す。	2	30	1		○	○		○	
○		セールスプロモーション	広告やマーケティングの仕組みを理解し、広告とパーソナルな販売努力とを協調し、行動、材料、仕掛け、各種媒体表現によるテクニックを実践をとおして身につける。	2	30	1		○	○			
○		印刷ディレクションⅠ	デザイン事務所経営の外山氏が実施することとする。印刷の仕組みを理解しながら、実践的な課題に取り組むことで、仕事の流れや考え方を知る。	2	60	2		○	○		○	
○		パッケージデザインⅠ	商品を買いたくなる、色や形でパッケージデザインの学習を行う。10種類以上のパッケージをピックアップして実習に活かす。	2	60	2		○	○			
○		ブランディングデザインⅠ	コーポレートアイデンティティシステムについて学び、意味を形にして価値をつくる方法の実践を身につける。	2	30	1		○	○		○	○
○		インフォメーショングラフィックス	複雑な情報を情報の整理や簡潔で的確なビジュアルで可視化して情報伝達する。広告などのグラフィックとして扱い見る人により印象を残す手法を学ぶ。	2	30	1		○	○		○	
○		DTPId	①冊子等の制作において必要なAdobe InDesignの基礎を理解する。②入稿作業を行うことで印刷の基礎知識を習得する。③リンクや色、文字のコントロールなどInDesignが使えるようにする。	2	60	2		○	○		○	
○		WEBレイアウトⅡ	①Dream Weaverの基本操作習得。② Web制作の基礎技術(HTML、CSS)習得。③ WEB制作の流れを理解する。	2	60	2		○	○		○	
○		WEB実践	導線が明確で、成果の上がるWEBページを構築方法を体系的に学び、ユーザーからの反応の取れるWEBページを完成させる。	2	60	2		○	○		○	
○		コピーライティング	コンセプトワークからコピーライティング、新聞広告のデザインを学び、静岡新聞広告賞入賞を目指す。	2	30	1		○	○		○	
○		写真基礎Ⅱ	就活に向けフォトブックを完成させる。特に撮影技術と表現力を織り込む。クライアントの要求に対応した写真撮影が出来るスキルを習得する。	2	60	2		○	○		○	
○		写真編集	広告ビジュアルのための写真素材の作成、データの管理などを広告制作の実践をとおして習得する。	2	30	1		○	○		○	
○		ポート企画Ⅰ	就職活動に必要なこれまでの製作成果や自己PRのためのツールを効果的にまとめる。	2	60	2		○	○		○	
○		企画制作Ⅱ	テーマに対しての企画を立て、DTPやレイアウトなど習得した技能を活かして、総合的な媒体にまとめ提案することができる力を身につける。	2	90	3		○	○		○	
○		コミュニケーション活動Ⅱ	学校行事・オリエンテーション・レクリエーションを実施し、クラス内や学科内の交流をはかす。	3	60	2		○	○	△	○	
○		キャリアプランⅡ	就職活動に必要な心構え・自己分析などを行い自分の方向性を定める。	3	30	1		○	○		○	
○		就職活動	実際の就職活動をする中で内定獲得を目指し、自己分析・自己PRツール・面接など就職活動に関わる技能を磨く。	3	30	1		○	○		○	

○		イラストレーションⅢ	テキストを使用した授業で表現の幅を広げる。コンペ出展で自分の画風と向き合う。仮想案件で実際の仕事に即した作り方を学ぶ。	3	60	2		○	○		○		
○		ディスプレイデザイン	販売促進計画を連動した店頭空間においてのPOPやディスプレイなどの視覚表現から、サインや景観などの空間デザインを視覚表現の側面から提案可能な力を身につける。	3	60	2		○	○	○			
○		印刷ディレクションⅡ	一連の企画制作を身に付けたディレクターの視点で、DTPの環境下での考え方から最終入校データを製作し、制作を現場に出て恥ずかしくない印刷物制作の総合力を身につける。	3	120	4		○	○		○		
○		パッケージデザインⅡ	商品を保護しアピールする個包装(パッケージ)のデザインを考え制作します。フィルムによるデザイン作業の違いを制作を通して学ぶ。	3	30	1		○	○				
○		ブランディングデザインⅡ	コミュニケーションの本質を探り、課題を実践しながらビジュアルを中心にした戦略的メッセージをつくることを、戦略的視点に立ってデザインを実践する。	3	120	4		○	○		○		
○		WEBビジネス	導線が明確で、成果の上がるWEBページをどう構築していくのかを学び、反応の取れるWEBページを完成させる。	3	120	4		○	○		○		
○		写真基礎Ⅲ	クライアントの要求に対応した写真撮影が出来るスキルを持つ。商業写真として、広告企画と連動した撮影および的確な編集をして素材を作り上げることができる。	3	60	2		○	○		○		
○		ポート企画Ⅱ	就職活動に必要なこれまでの製作成果や自己PRのためのツールを効果的にまとめる力を身につける。	3	30	1		○	○		○		
○		卒業制作	3年間の集大成として、身に付けた技術をどう社会につなげるかを実践する。テーマを基に企画立案を行い、企画書プレゼンテーションを実施。その後中間プレゼンテーション、最終審査、展示最終審査を経て卒業制作展で発表する。	3	300	10		○	○	○	○		
合計				57科目			3060単位時間(102単位)						

卒業要件及び履修方法 ■必須科目の成績評価に不可が無いこと ■総欠課時限数が年間消化時限数の15%以内であること ■査定日現在で学納金に未納がないこと	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。